

アメリカ土木学会 (ASCE) 次期会長 パトリシア・ギャロウェイ氏が来会

11月13日 ASCE の次期会長に就任するパトリシア・ギャロウェイ氏が、土木学会 (JSCE) を表敬訪問した。氏は1998年11月号に「土木界の国際戦略・土木学会が危ない (II) JSCE の危機 その国際化へのアプローチに関する提言」を投稿いただき日本にも詳しい方である。当日は、岸会長らと日本の建設界の国際化などについての意見交換を行った。

今回の日本訪問は、11日に高知工科大学での講演を目的として来日し、本会、国土交通省などを訪問した。

(土木学会事務局)



土木会館にて (右: パトリシア・ギャロウェイ氏, 左: 岸会長)

新感覚の公共交通 - 自転車タクシー誕生 -

2002年5月から京都の都心部で自転車タクシーが走っている。

日本で初めて市電を走らせた京都でまた、日本初の交通機関が誕生したと評判になっている。ドイツで開発されたヴェロタクシー (VELOTAXI) と呼ばれるシステムを、NPOの環境共生都市推進協会が運行しているもので、京町家が並ぶ京都の都心部に新たな風景が出現している。

ヴェロタクシーは、ベルリン市をはじめヨーロッパの12か国22都市で営業運行されている三輪車タイプの新型自転車を用いたタクシーで、後部座席に乗客二人が乗り込める。京都議定書で知られた京都を本拠とするNPOであるということからアジア初の契約が成立し運行されている。

温室効果ガスをまったく出さないうえ小回りがきくため、都心の交通手段として特に適しており、買い物・観光・高齢者の移動などに便利に利用できる。幹線道路に囲まれた都心ブロックの内部は、買いまわりなどの移動需要が少なくないにもかかわらず、公共交通サービスの空白地域となっている場合が多い。自転車タクシーは、これまでの公共交通がカバーできなかったこのような都心内部の短距離移動需要に応えるものであり、都心部におけるペネトレーション (公共交通などを地域内に「浸透」させるこ

と)の役割を果たす。

一方、機能面に加えて面白いのは、その基本的なコンセプトや運営スキームである。乗車は有料であるが、運賃収入によって採算を図るのではなく、車体広告や企業の協賛などによって成立させることを基本としている。したがって、人を運ぶという公共交通機関としての基礎的な機能以外に、人の心を惹きつけるだけの魅力をもつことも重要な要素となる。

企業イメージの向上や、企業としての環境への取組みをアピールするツールとして機能させるためには、車体の形状やカラーも含めたシステム全体の魅力によって、市民や観光客の視線を集めながら町を歩き交うこと自体が重要な要素となる。広告収入を雑収入として計上してきたこれまでの公共交通機関とは全く異なる発想に基づいているところが面白い。

京都では、若者に人気のある商業施設を拠点に運行しており、若者や子供連れの家族の利用が多い点でも新感覚の公共交通である。10月からは東京にも進出し、表参道・南青山近辺で運行をはじめている。

また、運行までの過程においては、京都の都心部の商店街やまちづくり活動を展開しているNPOなどの協力を得ながら計画を固めてきており、市民の視点に立った公共交通の推進という面からも注目される。

実際に乗車してみると、ドライバーとの対話も楽しめるし、道を歩く人から手をふられたりすることもある。ゆっくりとながれていく周りの景色を眺めていると、慌たしい時間のなかで癒される感じもする。早く着かなくても構わないと思えるような交通機関でもある。(VELOTAXI : <http://www.velotaxi.jp>)

(京都大学大学院 中川 大)



「第2回 土木の日・東京シティウォーク」は 玉川上水を三鷹駅まで逆上る

「くらしと土木の週間」の11月17日、東京の初冬を飾る風物詩となった標記ウォークを主催し、ウォーキング愛好家とサポートボランティア合わせて50数名の参加を得た。午前10時から四

谷の土木学会にて、宇佐美彰朗氏（東海大学教授・元五輪マラソン3回代表）のウォーキングセミナーと小泉智和氏（前東京都水道局理事・総務部長）の玉川上水ウォーキングガイドを受講し、午前11時から神宮外苑の国立競技場へと歩き始めた。

メインスタンドでは東京国際女子マラソンのスタートを楽しむ観客に混じり、多種多様なウェアの女性ランナーに声援を送りながら昼食を済ませた。お目当ての高橋尚子さんが肋骨疲労骨折で棄権したのが残念であった。スタート観戦後は外苑西通りを北に向かい、四谷大木戸跡にある玉川上水記念碑で上水開設の由来と玉川兄弟の功績を偲んだ。ここから羽村の取水口まで約43kmをわずか7か月で開削したと聞いて、工事の速さに驚いた。

その後、新宿御苑、新宿駅跨線橋から甲州街道を初台へ、渋谷区と世田谷区の玉川上水跡緑道を経て笹塚から代田橋までは姿を見せた上水に見とれる。甲州街道の上を横切り、杉並区の上水跡緑道を西に進む途中が玉川上水の真骨頂、自然の水路では絶対にお目にかかれない「武蔵野台地の尾根筋沿いに開削した上水」の様子がよくわかる。環状8号を横切り、久我山あたりで再び顔を見せる上水に沿って三鷹駅に20km歩きゴールを遂げた。

昨年第1回は国立競技場から渋谷川、古川に沿って日の出橋、芝浦埠頭からレインボー大橋を渡ってお台場にゴールした。来年第3回は千代田区の江戸開府四百年記念行事の一環として江戸城周辺を巡る予定である。今年のサポートボランティア10名はスポーツ系7名にシビック系3名、共に『CIVIC SPORTS ボランティア』のカードを張り付けたディバックを背負った。来年はCIVICなボランティアの頭数を増やしたい。

（日本スポーツボランティア・アソシエーション理事 藤田俊英）



土木学会2級技術者資格の 受験要件が変更される

土木学会では、倫理観と専門的能力を有する土木技術者を評価し、これを社会に対し責任をもって明示することを目的に平成13年度に土木学会認定技術者資格制度を創設した。

本資格制度では四つのランクの資格があるが、平成15年度からは特別上級、上級に引き続き、1級および2級の各技術者資格の審査が開始され、本格的に資格制度が運用されることになる。

四つの資格のうち、「2級技術者資格」については、「JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定プログラムを修了後、2年以上の実務経験または大学院修士課程を修了していること」を受験

要件としていたが、国際的同等性に配慮し、「実務経験年数を受験要件から削除し、実務経験年数1年を経過していることを資格の登録要件とする」ことに変更された。

この結果、大学学部・短期大学専攻科・高等専門学校専攻科を卒業した者はその年の秋に受験できることになった。また、大学院1年次の学生も受験することができる。（試験は本年10月の週末に実施予定。）

このことは、企業にとっては、入社した新入社員の技術力に関する基礎データが得られると同時に、就職を希望する大学院生の学力評価に使えるという直接的メリットがある。

また、土木学会としても、資格の取得により継続教育に取り組む会員が増え、会員の資質向上に結びつくことに加えて、学生会員の数が増えることが期待される。

なお、受験時に土木学会会員（個人会員または学生会員）であることは問わないが、本制度の目的から、試験に合格し、「2級技術者」として認定されるためには会員であることが必要となる。

（土木学会技術推進機構 片山功三）

MIHO MUSEUM BRIDGEが IABSE 最優秀構造賞を受賞

滋賀県甲賀郡信楽町にあるMIHO美術館内の橋梁、MIHO MUSEUM BRIDGE（写真）が、IABSE（国際構造工学会、伊藤学会長）2002 Outstanding Structure Awardを受賞し、11月2日、現地において銘板贈呈式が行われた。

この賞は、IABSEが過去数年に完成した構造物のうち、最も顕著かつ革新的、創造的な構造物に贈るもので、今年で3回目である。受賞理由は、「自然環境保護の厳しい制約の下で、構造美と芸術的な優美さを備えた軽快な構造を達成したこと」「アーキテクトとエンジニアの調和・融合」を実現した橋として海外での評価も高い。平成14年度はこのほか、パリのサッカースタジアムとデンマーク・スウェーデンを結ぶオレズンド連絡橋が受賞している。

式には、MIHO美術館理事長の小山弘子氏、設計者である建築家I.M.ペイ氏、構造設計者のレスリー・ロバートソン氏、施工者代表の榎波義幸清水建設専務執行役員のほか、IABSE会員ら約45名が参列した。

設計コンセプトは、「現実から夢の世界へ誘う架け橋」。現実の



現地で伊藤IABSE会長（右から2人目）に説明するI.M.ペイ氏（左端）とロバートソン氏（右端）。